

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年十二月度 入選句（投稿総数二千五百四十二句・一般投句数七百二十一句）

特選

山茶花のはげましあつて咲きにけり

長野県下伊那郡 長沼 まさし

山茶花は群がつて咲きます。そうだと励まし合つて咲いているのだと改めて確認をさせていただきました。そうでなければあんな風には咲けないのです。写生は見ることですが、見ることによつて感じます。その感じた心がこのような表現になつたのだと思います。

暮れ早し車窓のびわ湖眠りけり

大垣市

米川 弘子

釣瓶落しは秋の日ですが、あつと言う間に暮れるのが冬至前の冬の日です。大げさですが顔を見て喋っている中にその顔が暮れてくる感じがするのが暮早しでしょうか。さつきまで確か見えていた琵琶湖すつかり闇の中に消えて見えなくなりました。その瞬間「車窓の琵琶湖眠りけり」と心が叫んでをりました。

折れるだけ折れて枯蓮身を正す

福井県敦賀市

山田 美千代

折れるだけ折れ直立の枯蓮は私の句、ことばの上では「身を正す」と「真立の」だけの違いです。読んではつと思ひました。同じところを詠んでも詠む人によつて心が違うものだと言ふことです。真立より、身を正す が枯蓮の生感からは正解であると読み返しながら思ひました。こんなことがあるのも俳句なのだ勉強をさせていただきました。

秀逸

冬薔薇や硬き木椅子の礼拝堂

愛知県名古屋市

舘野 茂子

いさかひの理は妻にあり文化の日

東京都世田谷区

関戸 信治

松手入座敷明るくなりけり

大垣市

樋口 絹子

棟梁が先ず立ち上る焚火の輪

不破郡垂井町

富田 実郎

手の窪に貰う木の実や下校の子

大垣市

鶴田 信子

行く秋のヨットハーバー波静か

揖斐郡大野町

藤田 涼子

身繕ふ初冠雪の伊吹山

大垣市

田口 貞善

冬の蝶誰もすべらぬすべり台

大垣市

佐藤 すみ子

御手洗の水音ばかり神の留守

安八郡神戸町

高橋 日出美

水底に彩を重ねて散紅葉

三重県三重郡

小森 照美

入選

何色の表紙にしよか日記買う	大垣市	佐竹	露子
またあした別れの握手爽やかに	大垣市	桐山	敏子
残照の薄に埋まる古戦場	大垣市	平野	ヒサエ
一文字に迷ふ句作や秋桜	揖斐郡池田町	木塚	しょう
朝寒や兵役のなき世を生きる	不破郡垂井町	中嶋	笑子
コンバイン藁の匂いや罌雲	養老郡養老町	山田	順子
神の留守余生を祈る村の宮	大垣市	伊藤	琴晶
囲まれて生きる悦び十三夜	大垣市	小林	研
ドアノブに休診の札神の留守	千葉県印旛郡	寺嶋	和江
村と村つなぐ掛橋冬の虹	大垣市	中山	あや子

入選

葱白く幼馴染みの走り書	大垣市	秋山	くに子
待つ人のなき故郷や寒昂	大垣市	森川	きよ子
山茶花の散りて静かな石畳	不破郡垂井町	川瀬	慶泉
古里の匂いなつかし刈田道	大垣市	野原	富美
本を読む紙のすれ合う夜長かな	大垣市	松岡	みつ
柿ひとつ枝に残して友の逝く	大垣市	佐久間	敏雄
石露の花咲きて裏木戸明るうす	大垣市	新町	恵子
小春日やほんのり温き木のベンチ	三重県三重郡	進士	順子
数へ日の柱時計の螺子を巻く	兵庫県神戸市	紫	桔梗
水切の小石飛び跳ぬ冬日和	愛知県岡崎市	鈴木	正紘

選者吟

まだ生きる色を残して冬の菊